



(奈川小学校の児童とトウモロコシ栽培)

農業委員会西部ブロック活動紹介

西部ブロックは奈川、安曇、波田、梓川の農業委員、農地利用最適化推進委員計10名の委員で活動しています。

ブロック活動の取り組みとしては遊休農地を活用したトウモロコシ栽培を行っており、今年で4年目になりました。

今年度は食育活動の一環として奈川小学校の児童と共同でトウモロコシ栽培に取り組みました。奈川地区は、寒暖の差が朝と日中で約20度もあり、美味しい野菜が育ちます。9月中旬には児童と一緒に収穫しました。

圃場の周りには、シジミチョウの乱舞や、絶滅危惧種のゴマシジミが見られるところです。作業を通じて子供たちが少しでも農業に（又は荒れた農地）興味を持ってもらえればと思います。

(奈川地区農業委員 橋本 実嗣)

《主な内容》

- 西部ブロック活動紹介
- 意見書について
- 学校給食の取り組みについて
- がんばっています
- 売りたい・貸したい農地情報
- レインボーまつもと22
- 研修報告について
- よもやまばなし

松本市農業施策に関する意見書を提出しました

松本市農業施策に関する意見書を、10月5日に臥雲市長へ提出し、11月9日に開催された懇談会で意見交換を行いました。

農業委員会の活動目的である農地利用の最適化を目指すために中山間地域問題を中心に3つのテーマを持って意見書を提出しました。



「令和4年度 松本市農業施策に関する意見書」の要旨

地域内の自給圏構築による遊休農地の活用

- 市内の遊休農地は、今後中山間地域を中心にますます増加することが予測され、化学肥料や飼料も高騰しています。
- 国は農林水産業のCO₂ゼロエミッション化などを目指す“みどりの食料システム戦略”を打ち出しましたが、農地を有効に活用するためには生産者（農業者）の努力だけでは限界があり、新たな発想と価値観が必要です。
- 中山間地域の遊休農地を有効に活用して自給率を高める施策として、松本地域の自給圏構築に向けて農商工関係者に研究機関等を加えた協議の場を産業振興部に設置するよう要望しました。
- 個別施策として、地域ブランドにつながる商品の基礎的な検討や消費、生産、加工、販売のネットワーク化、畜産を核とする有機物循環の仕組みづくりへの支援、遊休農地へのヤギや羊の放牧とマトンを活用したローカルフードによる街おこしなどを提案しました。

農村地域を守るための担い手支援の充実・強化

- 農業委員会には、後継者がいないため農地をこれ以上守れないといった、切実な相談が日々寄せられていますが、中山間地域では次の耕作者を見つけることはなかなか難しい状況です。
- 農業の担い手は、農村における消防防災、地域伝承、環境維持といった生命や生活の守り手でもあるため、規模拡大、集積・集約化、新規参入に手厚い支援を行う国の施策とは別に、市施策として農村を守るといった視点から中小兼業農家や定年帰農者などへの支援を充実させることを要望しました。

農業・農政を支える体制の強化と予算の確保

- 令和3年4月の組織改正で、農林部がなくなり産業振興部を創設したことから、農業に関する声が届きづらくなることを心配する声が農業委員会へ届いています。農林部と商工部を統合したことでのようなメリットが生まれ、成果が上がったのか。気象変動やロシアのウクライナ侵攻などにより農業と食料確保の大切さが話題となっている今は、“国の基である農業”を力強く復興・支援し、他の優先課題の中で埋没することがないようにしなければなりません。
- 農政に地区担当制を導入するなどして地域に寄り添う体制を整え、広聴機能と政策立案能力を高めること及び農業振興予算の確保・拡充を強く要望しました。

農業委員会の研修



中立委員
瀧澤 和子

経緯

8月定例会は移動委員会でした。午前中は安曇基幹集落センターで総会を、午後は安曇地方の伝統野菜番所きゅうり(土地の人はばんごうりと呼ぶ)を研修しました。番所きゅうりは平成21年県がその存続を支援する「信州の伝統野菜」に認定されました。

その関係か県や市の特産物を特



集した印刷物(カレンダーやパンフレット)ときにはクリアファイル)には必ず記載されています。

でも、「見たことない」「食べたことない」の声が頻りです。

そんな次第で番所きゅうりを学ぶことになりました。

齋藤勝幸委員は番所に居住されているとの事で齋藤委員のお宅で話を聞くことになりました。

希少野菜

時機を逸して成っているところを見ることはできませんでしたが採種のために保存している



ものを見ながら、そして奥様が工夫を凝らして今日の為に冷蔵保存しておいてくださった浅漬けを味わいながら受講です。

講師は乗鞍生産者組合、きゅうり部会の奥灘初男さんです。

まず来歴。昭和初期には栽培されていたことはわかっているが詳細は不明との事。

水分豊富なことから山仕事・畑仕

事に持参して味噌をつけて食していたとの記録があるそうです。

この番所きゅうりも一時は衰退しました。信州大学農学部の大井美知男教授から「こんな珍しいきゅうりは存続させる必要がある」と聞かされた上松市男さんが音頭を取って再興させたのだそうです。21世紀になるころでした。

貴重野菜

番所は標高1300m。この高地でないミズミズしくはなりません。800mくらいの処で栽培したらパ



▲番所での研修風景

サパサのものができたそうです。

番所きゅうりはとても従順で交配しやすい性格。近隣にキュウリ畑やズッキーニ畑があつてはダメ。この土地の人みんなの協力が必要です。番所の人にとっては「ばんごうりは作るもの、西洋きゅうりは買うもの」なのです。

この取り扱い至難の番所きゅうりを26名で守っています。その26人はみな旅館業や飲食店、おいしく食べることへの労を惜しまないのが強みです。

県が支援する理由が理解できます。更には県が伝統野菜として認定したこと、松本市の調理師会や信州の伝統食の合理性・倫理性の伝承に力を注いでおられる横山タカ子さんなどから新レシピが提案されているそうです。将来が楽しみです。





その正体

直径5cmほど、長さ20cmくらい、ずんぐりした胴体に黒い棘のある突起がぽつぽつと…。お世辞にもスマートとは言えません。

皮は薄く爪で傷つければそこから割ることができ、果肉は柔らかく歯のない人でも噛めます。種はゼリー状でプチプチして甘く、実から皮まで捨てる処がありません。

5月下旬ころ種をまき、7月下旬から盆の頃迄収穫できます。葉も花

も西洋きゅうりより一回りも二回りも大きいのが特徴。

収穫せずに放っておくと曲がって変色して固くなります。そこから種を取って水につけ、沈んだものを乾燥させ次年度の種（ファザー・シード）として使います。

現在は個人個人で自主採種・自主栽培ですが、近々品評会・交換会などとしてより強くおいしいものを作ろうときゅうり部会が計画しているそうです。

地産地消

ここでしか取れない。ここでしか食せない。

その土地で摂れるものをその土地で費消する。

「地産地消」とはこういうことと物語るような番所きゅうりです。番所きゅうりを食べるに収穫時期の番所へ行きましょう。

伝統野菜とはその土地の気候・風土が基礎を築き、種の維持に精魂込める人情が加わって存続されていることをしっかりと認識しました。

終わり

番所の住人齋藤さんに「私のうちに寄ってもらってワイフときゅうり部会の人から話をして貰います」と言われたとき、齋藤さんはどんな豪邸に住んでいるのだろうか？と思ったものです。

到着したらなんと合掌造りの立派な建物。そして看板に「そば処 合掌」とあって納得。聞くところによれば糸魚川市の大久保集落から移築したとか。この建物のことも詳しくお聞きしたかったです。

そして齋藤さんがお子さんと丹精して栽培した乗鞍在来の番所蕎麦を石臼で挽き、乗鞍山麓の湧水で心を込めて打っているであろう蕎麦も、番所の空気と共に味わいたかったです。

お店の収容人数を過ぎる委員会を快く迎え入れて下さったうえ浅漬けまでご馳走して下さいました。齋藤さんの奥さんに深く感謝を表します。有難うございました。



▲そば処 合掌



▲乗鞍在来 番所蕎麦の畑

よもやまばなし



農業委員 林 昌美

農家の嫁

松本に嫁いで30年以上が過ぎた。

スカートとサンダル、長い髪をなびかせ畑に行く私はズボンと運動靴を履く様に言われた。

10時と15時にお茶を飲んだので毎日5食作った。一日中台所に居るような気がした。

トマトやきゅうりが上へ上へと登って行き、実を付けているのが珍しかった。トマトを切ったらゼリー状の胎座部分が真っ赤で腐っているのかと思ひ10個程切ったが全部赤かった。私の知っていたトマトは緑色のゼリー状で食べると酸っぱかった。畑で赤くすると中まで赤く甘くなると義母に教えてもらった。

きねぎを刻み、サバ缶を和えりと蕎麦・うどん時の脇役が主役となり美味しい。昼食に大量に刻んだ。義父に「白い部分はどうした？」と聞かれたが、そもそもきねぎに白い部分などあったのか？と思った。土から出ている所で切ってきた。ねぎとは抜くものらしい。白い美味しい部分を全て土の中に置いて来た等々農家での日々は書きつくせない程の驚きの発見だ。今では考えられない事だらけだが、未だに毎日新しい発見があり楽しい。

農協の役員や総代、農業委員をしている私を見たら義父母が一番驚き喜んでくれるだろう。一番の発見と驚きは私が農家の嫁であり松本に来て良かったという事だ。



お持ちの農地を活用してみませんか？

長野県農業開発公社からお知らせです！

長野県農業開発公社では、農地の貸借・売買を通じて農地の有効活用を図っています。対象となる農地は農業振興地域内の農地になります。

《貸し借りで活かす！》

- ◆農地の貸し借りを通じて担い手への農地集積と集約化を推進し、農地の有効利用や農業経営の効率化を図る事業です。
◆農地の出し手と受け手を営利を目的としない公的機関「農地中間管理機構」が仲介するので、安心して農地の貸し借りができます。

《売買で活かす！》

- ◆農地を売りたい・買いたいあなたを公社が支援します。
◆公社を活用した売買は、税制の特例が受けられる、農地売買に関する手続きを支援してもらえ等々のメリットがあります。

まずはご相談ください！

長野県農業開発公社松本事業所

住所 松本市島立 1020 (松本合同庁舎 5 階)
電話 47-7800 (内線 2852)

編集後記

最近、生物多様性という言葉が気になってきます。地上では様々な動物・植物・微生物などが共に生きているということ。そこで今年は水田の中干しを止めてみました。すると水田のとなりの自家用野菜畑でたくさん蛙たちがトウモロコシの葉の上、穂の中で見ることができました。

(新村地区農業委員 細江 弘光)

【情報・研修委員】

- 委員長 中川 敦
副委員長 河西 穂高
委員 小林 康基
委員 太田 辰雄
委員 細江 弘光
委員 齋藤 勝幸
委員 倉科 孝明
委員 林 昌美
委員 瀧澤 和子